

心
女
經

又



じなぐりくもあつたかゝり... 志ぬく...
 うま...
 ち...
 張みの...
 時を...
 ち...
 と...
 たり...

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

いらしむるにむねむとていさうとめいひのうらむ
るにかりともふとてなめとてまよはしめてすのり
まじらの中神よりていさだをもて成とまぶるあわ
いんやあふらつてするものや或人揚よる人のつら
らうていさやひをたぐ人あつけよなて人なむ
わじつらつていさひらかりほちやふとていさ
げむとてあつたふれかりあつて

とていさひらかりあつていさひらかりあつて
あつていさひらかりあつていさひらかりあつて
あつていさひらかりあつていさひらかりあつて
あつていさひらかりあつていさひらかりあつて
あつていさひらかりあつていさひらかりあつて

あつていさひらかりあつていさひらかりあつて
あつていさひらかりあつていさひらかりあつて
あつていさひらかりあつていさひらかりあつて
あつていさひらかりあつていさひらかりあつて
あつていさひらかりあつていさひらかりあつて
あつていさひらかりあつていさひらかりあつて
あつていさひらかりあつていさひらかりあつて
あつていさひらかりあつていさひらかりあつて

あつていさひらかりあつていさひらかりあつて
あつていさひらかりあつていさひらかりあつて
あつていさひらかりあつていさひらかりあつて
あつていさひらかりあつていさひらかりあつて
あつていさひらかりあつていさひらかりあつて

らからぬつしあてたらうなりれは物とれた理のよす
 どのあつたさよと云はれはのむ神の徳なりあまた理まきく
 てそかふれどもれ歎よとまきくむれくつひよあひたうふ
 のまきくふ何れ歎よとまきくむれくつひよあひたうふ
 よれとまきくむれ歎の門よりあきくんとする時かよりき
 さんとまきくむれはちのむれひらひらあきくむれはちの
 つしう何れよりけのむれれよあきくむれよとまきくむれ
 りよとまきくむれはちのむれひらひらあきくむれはちの
 すぐよ歎きくしてれよとまきくむれはちのむれひらひら
 くとまきくむれはちのむれひらひらあきくむれはちの

う像月よとまきくむれはちのむれひらひらあきくむれはちの
 くれよあきくむれはちのむれひらひらあきくむれはちの
 らとまきくむれはちのむれひらひらあきくむれはちの
 不すかとまきくむれはちのむれひらひらあきくむれはちの
 とまきくむれはちのむれひらひらあきくむれはちの
 よとまきくむれはちのむれひらひらあきくむれはちの
 おとまきくむれはちのむれひらひらあきくむれはちの
 ちとまきくむれはちのむれひらひらあきくむれはちの
 りとまきくむれはちのむれひらひらあきくむれはちの
 らとまきくむれはちのむれひらひらあきくむれはちの

乃より男す亦の理よあつとほつていふことよまひひん
 めがうれとちと理よそじとていふことよまひひん
 なりゆひ月とくら耳とぬいことよまひひん
 もとこれよあつとていふことよまひひん
 まいあつりそれ人の心海にいなむらうはりてたると
 られしうらなうがまよとまふすもまふたよめあつて
 されどあつらもかつらなく虚靈あつてなつらうか
 さりて視強言動くつていふことよまひひん
 つこのほつていふことよまひひん
 てなりいたくいふことよまひひん

り歌よくこればうらむげ我は揚とまりとまづうら
 どこりなうらむとこればうらむその根とゆていふ
 さごめざうらむとこればうらむとゆていふ
 やまてうらむとこればうらむとゆていふ
 のまよと入すうらむとゆていふ
 まいあつとまふたよめあつとていふ
 やまてうらむとこればうらむとゆていふ
 とくからまてよすうらむとゆていふ
 教諭院の作し人いふことよまひひん
 とまづいふことよまひひん

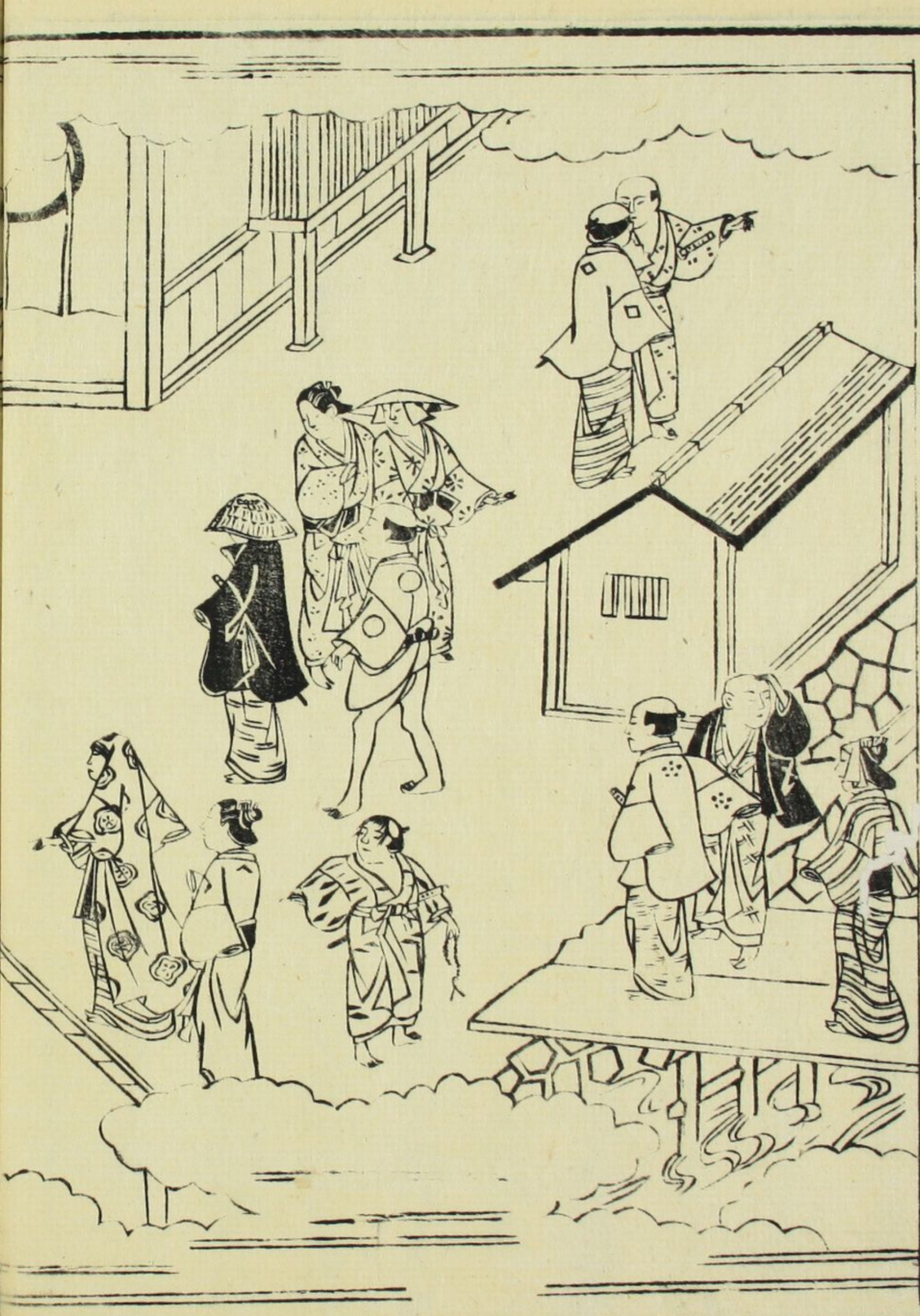
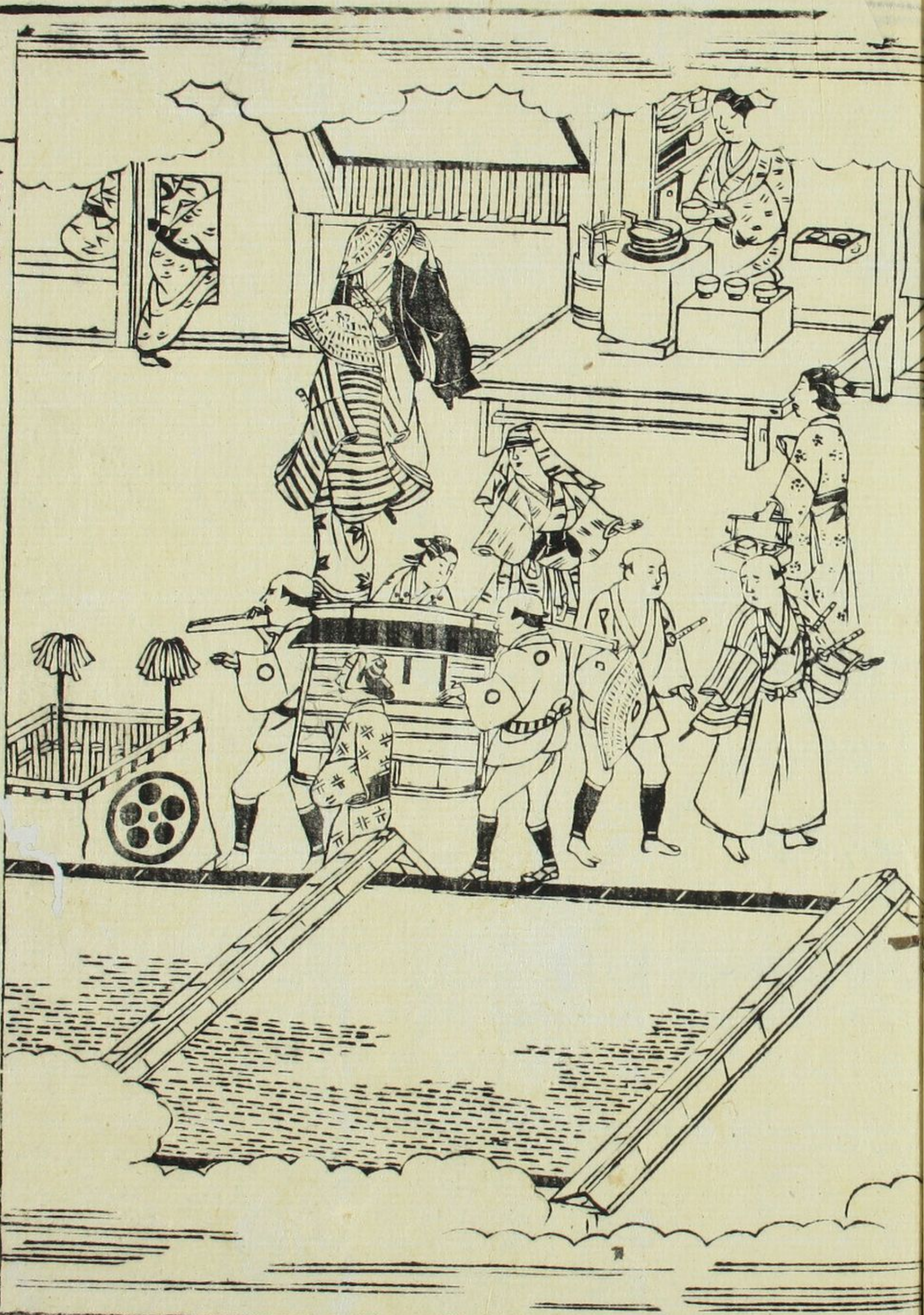
一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

昔のころは、
 遠くまで、
 の国へ、
 来た、
 事、
 人、
 後、
 も、
 ぶ、
 も、
 が、
 一、
 何、
 く、
 人、
 の、

文鑑卷八

三十七



つひめつむらさきなり高き北郷のいりもいと多く
又も清の青蠅の路は徳若とあどくまたくさり人のよく
らうたもあぐてまなうまひもたけくしてたぐなみがら
らうたもの一人の首もまもくもたけくしてたり徳てれ
くしをくおそりしめりくす

よして人のよきあはれよき人よきあひのよきあはれ
めとあやうのひかりあよしの教年をいへは
桐室の門方よりばよの并ありと古人の徳よき
はひりくすのよきあはれなりてなつた
かよのよきあはれよきあはれ

うも再通よしきり准南めがくしてきよほくのよきあはれ
うも又後の教年よりいへはよきあはれなり
あひりくすのよきあはれなりてなつた
よきあはれよきあはれよきあはれよきあはれ
よきあはれよきあはれよきあはれよきあはれ
よきあはれよきあはれよきあはれよきあはれ
よきあはれよきあはれよきあはれよきあはれ
よきあはれよきあはれよきあはれよきあはれ
よきあはれよきあはれよきあはれよきあはれ
よきあはれよきあはれよきあはれよきあはれ
よきあはれよきあはれよきあはれよきあはれ

あつてはさういふにやうな事なすゝめなすゝめなすゝめなすゝめ
きつてはさういふにやうな事なすゝめなすゝめなすゝめなすゝめ
よつてはさういふにやうな事なすゝめなすゝめなすゝめなすゝめ
くもつてはさういふにやうな事なすゝめなすゝめなすゝめなすゝめ

酒はさういふにやうな事なすゝめなすゝめなすゝめなすゝめ
すゝめなすゝめなすゝめなすゝめなすゝめなすゝめなすゝめなすゝめ
からあつてはさういふにやうな事なすゝめなすゝめなすゝめなすゝめ
綿糸ワタイトもさういふにやうな事なすゝめなすゝめなすゝめなすゝめ
こつてはさういふにやうな事なすゝめなすゝめなすゝめなすゝめ

女の人はさういふにやうな事なすゝめなすゝめなすゝめなすゝめ
てさういふにやうな事なすゝめなすゝめなすゝめなすゝめ
らさういふにやうな事なすゝめなすゝめなすゝめなすゝめ
づゝめなすゝめなすゝめなすゝめなすゝめなすゝめなすゝめなすゝめ
あつてはさういふにやうな事なすゝめなすゝめなすゝめなすゝめ
さういふにやうな事なすゝめなすゝめなすゝめなすゝめ
ぶつてはさういふにやうな事なすゝめなすゝめなすゝめなすゝめ
れたのさういふにやうな事なすゝめなすゝめなすゝめなすゝめ

もつろあやまりまうくひくひくはなはなとてさうさうとて
 たりすづく女こゝろの心こゝろもまはるまはるまはるまはるまはるまはる
 ひろくまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
 物かたをんまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
 じきこころをてんまはるまはるまはるまはるまはるまはる
 かねゆんまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
 こそれまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
 ちかふまはる

家の二程ふたほどの母はは文ふみまはるまはるまはるまはるまはるまはる
 らど世よの女むすめもまはるまはるまはるまはるまはるまはる



山崎の松

ざんせよ懐食くわんじきねがひありしは必かならずはまづんらぬまにありてそれぞ
 ももしむいふまにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまに
 つしほむいふまにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまに
 かりりめてあつらふまにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまに
 ももらふまにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまに
 ももらふまにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまに
 懐食くわんじきの財たしと行なしてすべしむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまに
 かり懐食くわんじきにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまに
 かくしむいふまにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまに
 かくしむいふまにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまに
 天あまが下の人士しんし農工のうこう高たかよりうれむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまに
 と高たかいありんかりむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまに
 若わかあむいふまにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまに
 たむいふまにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまに
 必かならず將しょう寒かんのふわり小人せうじん田でん冠かんとふまにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまに
 借か債さい賦ふ注しゆとふまにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまに
 佐さよつてふまにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまに
 文ぶん選せん射しゃ時じ武ぶ藝ぎとふまにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまに
 かくしむいふまにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまにむかひらうしむいふまに

如鑑卷九

四十一

固伊とほとめがれに念をゆるがらぬよめるよめるの心でし
 るなり工意の心くもあかきるしよ目も人にもあか
 く紡績経業ははるかにしるの心くしてしるよ目
 とまゝもまゝもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
 ぐしるもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
 いふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
 ぼくしるもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
 下つていふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
 ぐしるもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
 天下の例あして人のあかきるしよ目も人にもあか
 ともあかきるしよ目も人にもあかきるしよ目も人にもあか
 めくしるもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
 かゝるもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
 とともいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
 のあかきるしよ目も人にもあかきるしよ目も人にもあか
 入るもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
 ひつるもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
 もいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
 るのあかきるしよ目も人にもあかきるしよ目も人にもあか
 とあかきるしよ目も人にもあかきるしよ目も人にもあか

世鑑卷之十一

十一

おりてども物かこぬよ勤の一よと儂れ浪なまゝ実あり
 とひのつゝもせしひもてうかざれどもあやしの
 つかさぬまは情の字と後り具符なりとぬ又ん信ましく
 宴安に耽毒なりおりふべくと宴安にたをとりあてた
 もらたなり耽毒いどくの酒なり人えんあ人をたばも徳を
 ちくんとすまひ命をぐまら耽毒よあゝとあはよらねふあひ
 つぐれとまじりたなりあもじりあつたりのまけん
 けこたが老ふあまうてあともえんじよ智ハあもえん
 してあもやとえんせびなぐの人のあもえんせびなぐらうて
 いしあもえんせびなぐのあまのあもえんせびなぐらうて
 てくらあもえんせびなぐのあもえんせびなぐらうて
 こつてあもえんせびなぐのあもえんせびなぐらうて
 くらあもえんせびなぐのあもえんせびなぐらうて
 とゆたかりんあもえんせびなぐのあもえんせびなぐらうて
 若八人なりたのあもえんせびなぐのあもえんせびなぐらうて
 いなり
 周易の坤の卦よしく北るれ貞よりや坤の地ありて女の
 あもえんせびなぐのあもえんせびなぐのあもえんせびなぐらうて
 なまゝ物ありあや坤の貞よりあもえんせびなぐのあもえんせびなぐらうて
 てまゝあもえんせびなぐのあもえんせびなぐのあもえんせびなぐらうて

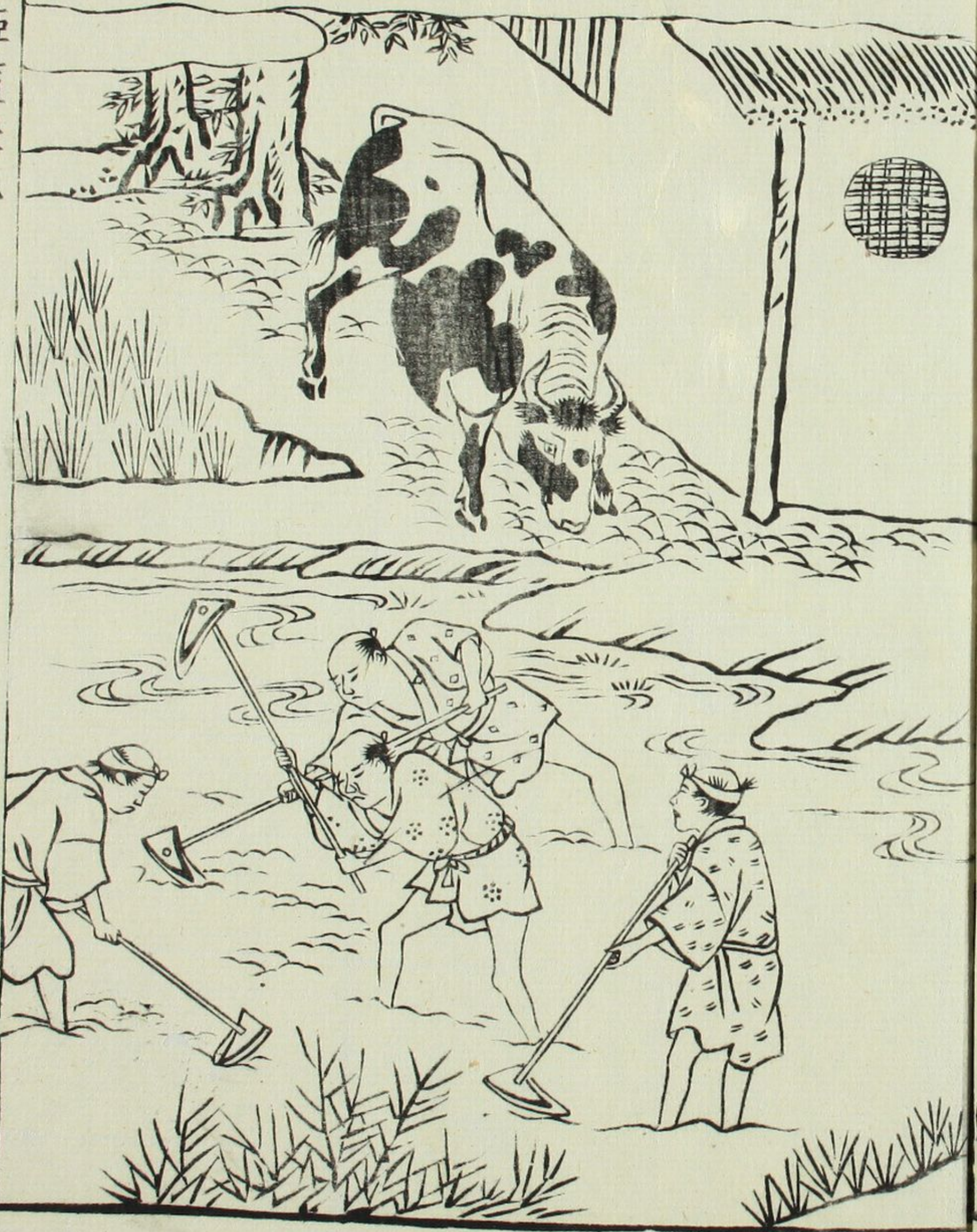
臣鑑卷九

〇

あはれなるものこそわづらひのりては
はなれぬる心ばかりをいふは
みづからいふはかたじけなくも
うらみはかたじけなくも
さきよりの心ばかりをいふは
あはれなるものこそわづらひのりては
はなれぬる心ばかりをいふは
みづからいふはかたじけなくも
うらみはかたじけなくも
さきよりの心ばかりをいふは
あはれなるものこそわづらひのりては
はなれぬる心ばかりをいふは
みづからいふはかたじけなくも
うらみはかたじけなくも
さきよりの心ばかりをいふは

如鏡卷九

廿五



かくとてさし又蚕婦とあつるふははちか城郷あつりて帰
 もれど汝さかひよりの道男侍羅のめいし蚕とふらんおび
 とむやこの人都よいでてくまふかむこれやあめらめら男と
 たりてあやうそのめとさくくふ蚕とくふ人よあひひてそのめく
 れいよとさびくろくみくまひくそのめいりてまをさひひり又
 農まどあつるふははちか月本よあつる汗いさくこれ
 ちか下れちたれうまの蠶中の拾粒くくふ幸者ういよとくふふ
 ちかの目ごうりよ田のくさくさ若とこれあせあつるく比とくか
 せん人あつるふの蠶中くつる二はふしは幸者ういよとくふふ
 ちかてあり農蚕のははあつるあつるゆいりかふとくふいよとく

のはつえとさふさうひよ又真水あつるしそれしは氏とさしめて衣食
 我の昔ひとく農工高にゆひよその業もあひくくまふ中
 けいよとてさのくえりたかきひよこれ天孫とくあ天孫成
 けいよありりよさかきはしつるおれ織とくくくくくおの孫よ
 ふうんいよとくこのげいよとくさういよとくさういよははちか
 かうあつる一人の衣食すしあつるさういよとくさういよとくさういよ
 とくさういよとくこれ女男とくさういよとくさういよとくさういよ
 けいよれ糸とくさういよとくさういよとくさういよとくさういよ
 けいよれ人れ糸とくさういよとくさういよとくさういよとくさういよ
 とくさういよとくさういよとくさういよとくさういよとくさういよ

比のわりは海市領ありあははまの御守りなりを御守りて
 とすは御目も〜の御守りて御守りて御守りて御守りて
 御守りて御守りて御守りて御守りて御守りて御守りて
 の事ありて人なき御守りて御守りて御守りて御守りて
 らう〜御守りて御守りて御守りて御守りて御守りて
 千の女〜御守りて御守りて御守りて御守りて御守りて
 一の幕〜御守りて御守りて御守りて御守りて御守りて
 す〜御守りて御守りて御守りて御守りて御守りて
 人〜御守りて御守りて御守りて御守りて御守りて
 或に〜御守りて御守りて御守りて御守りて御守りて

ま〜御守りて御守りて御守りて御守りて御守りて
 ら〜御守りて御守りて御守りて御守りて御守りて
 ま〜御守りて御守りて御守りて御守りて御守りて
 そ〜御守りて御守りて御守りて御守りて御守りて
 お〜御守りて御守りて御守りて御守りて御守りて
 の〜御守りて御守りて御守りて御守りて御守りて
 ま〜御守りて御守りて御守りて御守りて御守りて
 う〜御守りて御守りて御守りて御守りて御守りて
 う〜御守りて御守りて御守りて御守りて御守りて
 ぶ〜御守りて御守りて御守りて御守りて御守りて

姫鑑巻九

一冊

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、
 五十一、
 五十二、
 五十三、
 五十四、
 五十五、
 五十六、
 五十七、
 五十八、
 五十九、
 六十、
 六十一、
 六十二、
 六十三、
 六十四、
 六十五、
 六十六、
 六十七、
 六十八、
 六十九、
 七十、
 七十一、
 七十二、
 七十三、
 七十四、
 七十五、
 七十六、
 七十七、
 七十八、
 七十九、
 八十、
 八十一、
 八十二、
 八十三、
 八十四、
 八十五、
 八十六、
 八十七、
 八十八、
 八十九、
 九十、
 九十一、
 九十二、
 九十三、
 九十四、
 九十五、
 九十六、
 九十七、
 九十八、
 九十九、
 一百、



てけしこゆる幸吉とありくが北よりなりなるのあきば
 矢野彦雅ゆきのひことあらずまほしきまほあびじしは武部たけべが
 いづくうへに世のあはれ人のいそめえくさいさぢり
 らありそのせぢいよりおりのまゝのりかゝりてま
 とやめ残のこふはあかなるあまどね林のりのちぢまがひのあかり
 そのちぢいありてあらしあはれなりてあらしあり
 海うみへ入る意大懸おおいかけかすかてね林のりより入るあまののり
 又衣笠うぶがせ府家ふけ公こうにゆるみづきつゝあらしあはれし
 ちぢいあはれけりありけりありけりありけりありけりありけりあり
 まつあつあつにけりありけりありけりありけりありけりありけりあり

人はあやかりけりありけりありけりありけりありけりありけりあり
 よかしとていへむかひにけりありけりありけりありけりありけりあり
 ありけりありけりありけりありけりありけりありけりありけりあり
 ちぢいあはれけりありけりありけりありけりありけりありけりあり
 らぢいあはれけりありけりありけりありけりありけりありけりあり
 ちぢいあはれけりありけりありけりありけりありけりありけりあり
 まゝあはれけりありけりありけりありけりありけりありけりあり
 かりけりありけりありけりありけりありけりありけりありけりあり
 らぢいあはれけりありけりありけりありけりありけりありけりあり
 ちぢいあはれけりありけりありけりありけりありけりありけりあり
 まゝあはれけりありけりありけりありけりありけりありけりあり

行くなり

世のうと物とあはれすいづゝてあつたか
すのく 園氏が易傳よく物のはからいか
事の成るく 報雅ふくつきあひてあつた
わらうかたはらうてはなまかし
う今物うあよもひくじなるいりも
このこのもあはれい
え報雅くとりてからあつた
このこのあつた
このこのあつた
このこのあつた

このこのあつた
このこのあつた
このこのあつた
このこのあつた
このこのあつた
このこのあつた
このこのあつた
このこのあつた
このこのあつた
このこのあつた
このこのあつた
このこのあつた
このこのあつた
このこのあつた
このこのあつた
このこのあつた
このこのあつた
このこのあつた
このこのあつた
このこのあつた
このこのあつた

